

史上初、福岡で開催！第26回日本小児・思春期糖尿病学会

三 念すべきインスリン発見100周年の年である2021年。節目の年である今年の日本小
記 児・思春期糖尿病学会年次学術集会在、6/20(日)に史上初・福岡で開催されました。
今回の第26回学術集会の大会長は南昌江院長が務めました。本来なら2020年に開催される予定だったのですが、コロナ禍もあり丸1年延期に。今年こそは盛大に開催できる、と
思っていた矢先、福岡は3度目の緊急事態宣言の対象区域に……。直前まで調整を続けま
したが、最終的に感染リスクなどを考慮しオンラインのみでの開催となりました。

■ Report 1

8:20-11:45 一般演題発表

8:20、南先生の開会の辞によって、遂に学会が始まります。発信会場であるアクロス福岡には運営スタッフしかいませんが、オンラインでは朝早くから参加者が詰めかけ、開始早々200人を超えるアクセスが集まりました。参加者はそのまま増え続け、常時300人を優に超え、400人に迫る人数が参加されていました。これまで開催された日本小児・思春期糖尿病学会の中では群を抜いて多い参加者数となったとのこと。

午前中のプログラムは3部構成で、『サマーキャンプ』『移行期』『心理』の各テーマでそれぞれ5-7名の先生方に発表いただきました。『サマーキャンプ』ではコロナ禍以前の各地のサマーキャンプでの活動・調査の話（福岡のヤングホークスサマーキャンプからの発表もありました！）、『移行期』では患者さんが徐々に成長していく中での治療や生活の難しさの話、『心理』では気持ちや心の変化、悩みなどが治療・生活に及ぼす影響の大きさの話を、全国各地の施設から多様な切り口で伺うことができました。どれも素晴らしい発表ばかりで、オンラインを通じて質問も多く飛び交っていました。

▼今回の学会のポスター。写真のモデルも1型糖尿病患者さんです。



▲南先生、キッと凛々しい表情。



開始前、満面の笑顔😊

■ Report 2

14:00-16:10 公開シンポジウム

12:00からのランチョンセミナー、12:40からの総会を挟んで、14:00からは今回の学術集会の目玉であるプログラム、『自立』がテーマの公開シンポジウムが始まります。

開始までの約1時間の休憩時間には、公開シンポジウムで演者としても登壇されるプロカメラマン・太田晃司さんのオンライン写真展、インスリン100周年の記念動画、そして南先生の強い思いが込められた『自立への扉を拓くために』と題したオリジナル動画が上映され、参加された方々からも多くの感動の声を頂きました。公開シンポジウムは、前半に特別講演、後半に4人のシンポジストに実際の体験談を話していただき、その後パネルディスカッションを行っていただく流れで進行しました。次ページで詳しくレポートします！

『自立』をテーマに、大いに盛り上がった約2時間の公開シンポジウム



▲特別講演の小川弓子先生

公開シンポジウムは南先生が開会の挨拶を述べられた後、小川弓子先生の特別講演から始まりました。小川先生は福岡市立心身障害福祉センターのセンター長に就かれている医師で、視覚障害の子を持つ一人の母でもあります。今回は医師として、母としての立場から、葛藤や不安、その中でも周囲の方々に支えられ歩まれてきたというお話を伺いました。患者さん本人だけでなく、ご家族の方にとっても、「前向きに生きよう！」と勇気を頂ける素晴らしいお話だったことと思います。特別講演の終了後には、南先生も涙されていました。

後半は、4人のシンポジストから「自立」について、それぞれの立場でお話いただきました。大村さんは1型糖尿病の子を持つ母としての悩みや葛藤の話を。岡田さんは大の趣味という登山に絡めて糖尿病や人生との向き合い方の話を。錦戸さんからはサマーキャンプとの出会いが自身の人生を変え、自分の人生の一部となっているという話を。そして太田さんからは、プロカメラマンである今の自分を



▲4人のシンポジストの方々。左上から時計回りに大村利恵さん、岡田果純さん、太田晃司さん、錦戸慎平さん

形作った、かつてのにくき“敵”で今や大事な“相棒”である、1型糖尿病と自分の人生の話を。4人のシンポジストのお話は大変素晴らしく、皆さんそれぞれが“夢”のあるお話で、感動と勇気をいただきました。予定時間を超過するほどパネルディスカッション也大いに盛り上がり、参加された方からも沢山の反響を頂きつつ盛況の中終了しました。



▲シンポジウム座長の小川洋平先生(左)、菊池信行先生(右)。お2人の名司会なくしてこの会は成り立ちませんでした。

形作った、かつてのにくき“敵”で今や大事な“相棒”である、1型糖尿病と自分の人生の話を。

4人のシンポジストのお話は大変素晴らしく、皆さんそれぞれが“夢”のあるお話で、感動と勇気をいただきました。予定時間を超過するほどパネルディスカッション也大いに盛り上がり、参加された方からも沢山の反響を頂きつつ盛況の中終了しました。

糖尿病にかかわらず、今の自分に悩む全ての人が勇気を貰える話でした。
(30代/医療関係者)

糖尿病について詳しく聞いたのは初めて。園での預かりをしっかりと検討したい。
(60代/幼稚園 園長)



若くして発症した皆さんが「夢」を持って挑戦している姿に感動した。
(50代/1型糖尿病患者)

小川弓子先生の話に感動。子育て中のすべての人によい話でした。
(60代/1型糖尿病患者)

参加者の声

学会を終えて

第26回小児・思春期糖尿病学会 年次学術集会 大会長 南昌江

第26回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会を2021年6月20日に開催させていただきました。思えば3年前、この学会の会長を拝命した時には、このような任務を全うできるか不安で仕方ありませんでしたが、スタッフはじめ沢山の方々にご協力・ご支援をいただき準備を進めてまいりました。そして昨年、何とか形を作ることができたと思った矢先、新型コロナの蔓延で1年延期となり、その後もコロナの収束が見えない中ではありましたが、webを活用する「New Normal」な形で無事開催に至ることができました。これもひとえに関わっていただいた皆さまのお陰です。この場を借りて心より感謝申し上げます。

14歳で1型糖尿病を発症し44年が過ぎました。私の主治医であり恩師でありました、故仲村吉弘先生は、「小児糖尿病の治療の目標は、その患者が自立するために将来を見据えた治療を行うことだ」と常におっしゃっていました。そんな恩師や亡き両親に感謝し、今後も小児思春期糖尿病の診療に尽力してまいりたいと思っております。